

# 2025年度入学試験問題

## 国語

### 注意

- 一 問題冊子は一冊（十八ページ）、解答用紙は二枚です。
- 二 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等により解答できない場合は、手を高く挙げて監督者に知らせなさい。
- 三 すべての解答用紙に、それぞれ二箇所受験番号を算用数字で記入しなさい。
- 四 解答は、すべて解答用紙の指定されたところに書きなさい。
- 五 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

問題 一

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(出題の都合上、本文に省略した箇所がある。)

著作権等の都合により公開いたしません

著作権等の都合により公開いたしません

著作権等の都合により公開いたしません

(石川九楊『ひらがなの世界——文字が生む美意識』による)

注 女手Ⅱひらがな。

**問一** 傍線部アイウエを漢字に直しなさい。

**問二** 傍線部(1)について、「三種の文字とともにある言葉が日本語をつくっているのだ」と筆者が考えるのはなぜか、一般的な考え方と比較しながら理由を述べなさい。

**問三** 傍線部(2)について、「これら三つの言葉を総合して日本語の〈サクラ〉はできている」とはどのような意味か、本文の内容をふまえてわかりやすく説明しなさい。

**問四** 傍線部(3)について、「漢語と漢語との間をこじ開けるようにして、テニヲハを補い、日本語を文にする役割」とはカタカナのどのような役割を指しているのか、本文の内容をふまえて具体的に説明しなさい。

**問五** 傍線部(4)について、「文字を書くことによって日本語がつくられ、その存在が支えられていった」とはどのような意味か、本文の内容をふまえてわかりやすく説明しなさい。

## 問題 二

次の文章は、小川洋子『寄生』の一部である。「僕」は、「彼女」にプロポーズをしようと待ち合わせ場所のレストランに向かっている際、駅前で突然、見知らぬ「老女」にしがみつかれた。やつとの思いで一緒に交番に行くと、「老女」は「僕」のことを、赤ん坊の頃に手放すことになった自分の息子だと「お巡りさん」に主張した。これを読んで、後の問に答えなさい。

著作権等の都合により公開いたしません

著作権等の都合により公開いたしません

著作権等の都合により公開いたしません

著作権等の都合により公開いたしません

著作権等の都合により公開いたしません

著作権等の都合により公開いたしません

著作権等の都合により公開いたしません

(小川洋子『寄生』による)

注一 とつくりセーター＝首元の部分が丸く高いセーター。タートルネックのセーターと同じ。

注二 ホルマリン＝生物の標本をつくる際、固定、防腐処理を目的に広く用いられる薬液。

注三 カフスボタン＝ワイシャツの袖口を、ボタン代わりにとめる装飾品。

注四 ペーパーウェイト＝紙や布など、軽いものが風に飛ばされないようにするための重し。

注五 スモック＝衣服の汚れ防止などのために着る、ゆつたりとした上着の総称。

問一 空欄 **ア** には、それまでの場面における発言が同じ形で繰り返される。初めの三字のみ書き抜きなさい（「」を除く）。

問二 傍線部(1)について、この表現はどのようなことの比喩か説明しなさい。

問三 傍線部(2)について、このときの「僕」の心情をわかりやすく説明しなさい。

問四 次の会話は、右の文章を鑑賞した三人の読者 A・B・C によるものである。空欄 **イ** **エ** に入る適切な内容を、本文をふまえて、会話に合う形で答えなさい。

A 「『寄生』の作品世界は、場面の展開に特徴がありますね。

C 「まず冒頭では、「僕」は、「老女」を「赤ん坊」のように見えていますよね。

B 「二重傍線部の「赤ん坊にお乳をやるというのは、こんな感じなのだろうか。」というところですね。

C 「なぜ「僕」は二重傍線部のように思ったのでしょうか。」

A **イ** からでしょうね。

B 「ただ「僕」はとても迷惑そうな感情もあるにはありますよね。ため息までついていますし。

A 「でも、終盤を読むと、「老女」に向かって「謝る必要なんてないんですよ」と言うまでになっていますよ。

B 「なぜ、冒頭では迷惑そうだったのに、最後にはそのようなことを言うまでになったのでしょうか。」

C―中盤を見ると、「彼女」との出会いを思い返す場面がありますね。ここに変化の理由がある気がするのですが。

A―きつとそうでしょうね。終盤で「謝る必要なんてないんですよ」と「僕」が言うまでになったのは、それまでの展開も関連させてまとめると、

ウ

からだと言えるのではないかと考えます。

B―プロポーズをしようとしているほどに、「僕」にとつて影響力のある「彼女」だからこそ、「僕」の認識に影響を及ぼしたのでしょうか。

A―その結果「老女」にしがみつかれて迷惑がっていた「僕」も、「老女」の存在を受け入れるようになったのでしょうか。

C―そう考えると、「僕」はなぜ「彼女」との出会いを思い起こしたのでしょうか。

B―それはプロポーズをしようとしていたからでしょう。待ち合わせのことを気にしている場面がありますし。

A―加えて、「老女」に「彼女」を思い起こさせる面があったから、というのも考えられると思います。

B―年齢からして全く違う気がするのですが。

A―「僕」の認識の中で、「老女」と「彼女」の外見で共通するところがありますよね。具体的に言うと、どちらも

エ

と

いうところなのですが。

B―なるほど、確かにこの作品を通して、その部分に関する表現が多いですね。

A―寄生という言葉は否定的な意味合いを感じさせますが、この作品はその見方を変えようとしているようですね。

C―小川洋子の他の作品も読んでみたくなりました。

### 問題 三

次に掲げる(A)は『伊勢物語』の一節であるが、その中の「なかなか」の歌は、『万葉集』の歌(B)と類似していることが知られている。(C)はそのことについて述べた藤原俊成の歌論の一部である。これらを読んで後の問に答えなさい。

著作権等の都合により公開いたしません

著作権等の都合により公開いたしません

(藤原俊成『古来風躰抄』による)

注一 桑子<sup>くわこ</sup> 蚕のこと。以下、蚕にでもなれば恋の苦しみから逃れることができるのに、という心情を歌う。

注二 玉の緒ばかり 〓 わずかな間だけでも。

注三 きつにはめなで 〓 未詳。「水槽にぶち込んでしまおう」の意の東北方言とする説がある。

注四 くたかけ 〓 鶏を口汚くののしつて言う語。鶏のやつが早く鳴いたために「背な」(夫)が帰ってしまったと歌う。

注五 栗原の姉齒<sup>あねは</sup>の松 〓 「栗原」<sup>くりはら</sup>「姉齒」は陸奥の地名。

注六 人ならば 〓 人並みだったら。

注七 都のつと 〓 都への土産。ここは「女」を都へ連れて帰ることを指す。

注八 なかなか 〓 『伊勢物語』の歌とは小異があるが、俊成は『伊勢物語』の歌と『万葉集』の歌を同じものと考え、『万葉集』の形で引用している。

注九 さもありぬべき 〓 (その場面で) いかにもそうありそうな歌。

問一 傍線部アイウエを現代語訳しなさい。

問二 傍線部(1)「そこなる女」は(A)の文中でどのような人物として描かれているか。(C)を参考にして説明しなさい。

問三 傍線部(2)の歌で「男」はどのようなことを「女」に伝えようとしているのか。「まし」に注意して説明しなさい。

問四 傍線部(3)「よろこぼひて」とあるが、なぜ「女」は喜んだのか、本文に即して説明しなさい。

問五 『伊勢物語』の歌と『万葉集』の歌(B)が類似していることについて、俊成はどのように考えているか、(C)の本文に即して説明しなさい。

問題 四

次の詩は白居易の作である。これを読んで、後の問に答えなさい。（設問の都合上、送り仮名を省略した所がある。）

著作権等の都合により公開いたしません

# 著作権等の都合により公開いたしません

『白氏文集』による

注一 喚笙歌Ⅱ宴席を盛り上げるための楽隊を招く。笙は笛の一種、ここでは音楽を指す。

注二 萎花Ⅱしおれた花。

注三 槿Ⅱむくげ。朝に咲いて夕方にしぼむ。

注四 敗葉Ⅱ枯れた葉。

注五 秋眼Ⅱ秋になって自分の目に映るもの。

注六 芳歳Ⅱ若さ。

問一 この詩は近体詩である。詩形を漢字四字で答えなさい。

問二 空欄 A に入る最も適当な語を次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 家      ② 衆      ③ 多      ④ 的      ⑤ 寡

問三 傍線部(1)をすべて平仮名で書き下し文にしなさい。

問四 傍線部(2)をわかりやすく現代語訳しなさい。

問五 傍線部(3)「試遣喚笙歌」の句に込められた作者の思いを、詩全体をふまえて説明しなさい。